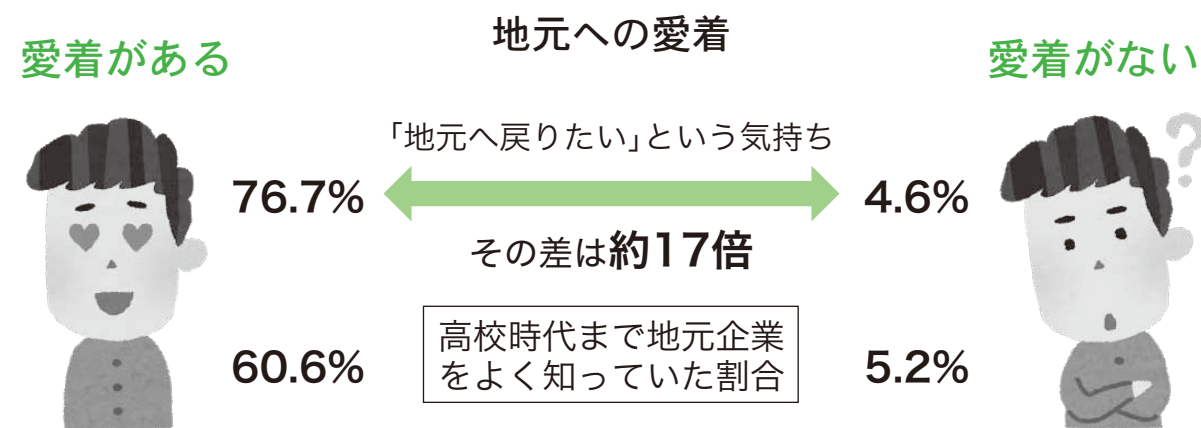


出身市町村へのUターンを希望する若者って



参考：「地域における雇用創出・人材還流の可能性を探る」(独立行政法人労働政策研究・研修機構)

地元企業を「よく知っていた」若者ほど、出身地に強い愛着を持っている

だから
シゴトを伝える
ことが、大切です。



「シゴトの魅力」伝え方研修会

若者のために大人が学び、魅力を伝えていくため、地域の企業で働く大人を対象に、仕事の伝え方を考える研修会を開催。

行政



「ふながた WAKU WAKU WORK」

若者に地域の仕事・大人を知ってもらうため、中学生を対象に、地域企業を集めての職業体験会の開催。

孫とマチをつなぐ

町では、将来「舟形町で暮らす」ことが選択肢の一つとなるように、若者に町や地域の魅力を伝えていくため、「おかえり！孫プロジェクト」(孫プロ)に取り組んでいます。

「町で暮らす」を 選択肢に

平成29年度に実施したアンケートの結果から、「将来町に住みたい・戻ってきたいと思わない」と回答した生徒や学生は、全体の14.4%でした。なぜ、そう思うのか、その理由は、「就職先がない」・「希望する仕事がない」という回答が多く、「最上地域に仕事がないから出ていく」という傾向があることが分かりました。

では、本当に最上地域に仕事がないのでしょうか。表1を見ると約4500もの事業所があり、有効求人倍率(日30年山形県)も1.5倍を超えています。このことから、実際は「最上地域に仕事がない」のではなく、「最上地域の仕事を知らない」ということが見てとれます。

高校を卒業し進学・就職のために町外に転出することは、止められることではありません。若者が地域外に出て成長し経験を積んで、また町に戻ってきたいと思ったときに、戻ってこれる環境を、行政・企業・教育機関・保護者がそれぞれの枠を越えて、一体となってつくっていくことが重要だと考えています。

最上地域の業種別事業所数

(H26経済センサス)【表1】

業種	事業所数
卸・小売	1,065
建設	620
宿泊/飲食サービス	548
生活サービス・娯楽	518
製造	380
サービス	302
医療・福祉	300
不動産	147
教育	134
その他	490
計	4,504

将来、舟形町に住みたい、戻ってきたいと思わない生徒や学生

14.4%

舟形町に将来、住もうと思わない理由は？

希望する仕事がない

就職先がない

最上地域には仕事がないから出ていく

舟形町地域づくりアンケート(H29)より